



## G 地球市民&異文化共生社会

講師：高知県 IYEO 会長 前田 正也

通訳：高知大学(北京外国語大学留学生)近森 藍璃

地球市民として NGO への寄付を通じた国際支援の在り方を考え、バーチャル国会議員として異文化共生社会が直面する様々な課題を、法案審議を通じて考えた。

- ① コンテンツ：「地雷」「難民」「女性」「教育」「疾病」
- ② 尊厳死法案⇒法案否決（賛成 37：反対 48）
- ③ 安楽死法案⇒法案成立（賛成 44：反対 41）
- ④ クオータ制法案⇒審議中（2020 年度に引き継ぎ）



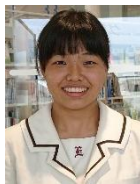
高知大学 花田 博文

今まで消極的だった自分だが、今日一日で自分の殻を破ることができた。他人の発言を自分のものにして相手を説得できることを学んだ。自分の発表の後、法案が可決されたことが印象に残っている。



愛媛県立土居高等学校 大西 宗士

グループの中で賛否を言い合い、話し合うことで多様な意見を聞いた。主観か客観かの立場で意見が大きく変わることを知った。次は参加者ではなく、主催者側のスタッフとして参加したい。



高知県立高知東高等学校 岡林 花乃

ファシリテータとして参加したが一人ひとりの意見を聞きながらその場を上手く回すことが難しかった。でも自分の中では満足している。異性や外国人との意見は違っても倫理的な価値観は同じだと分かった。



高知リハビリテーション専門職大学 中野 紗希

法案審議の中で自分の意見が変わり、自分の知識を深めたいと思った。初めて大勢の外国人や社会人の方々と同じ空間にいたことが貴重な経験になった。多様な価値観と他人の意見に触れ、視野と価値観が広がった。



高知県立高知西高等学校 山崎 唯子

難しい評決を迫られる法案審議だった。根拠と責任を持って社会問題を考えることが大切だと思った。周りの人の意見を踏まえ、自分の意見を振り返ることで、本当の自分の意見が見つかると思う。



高知リハビリテーション専門職大学 片岡 小春

自分の知識の少なさを発見し、相手の意見を聞くことの大切さを学んだ。法案について意見交換する中で自分の意見が変わったことが印象的だった。自分の視野も広がり、医療専門分野の勉強にもなった。



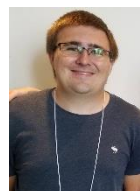
高知県立岡豊高等学校 高橋 虹翔

玩具紙幣で実際に NGO に寄付したことが印象に残った。自分の意見をみんなが尊重してくれて、やればできると感じた。国を超えた色んな発想を学び、その場で考えて発言する機会があり良い経験になった。



アメリカ アレックス・ホアング(高知大学留学生)

参加したアメリカ人みんながすごく楽しんでいた。若い人たちが世界のことを学び問題について話し合ういい機会だった。将来、人々がお互いのことをより良く理解できる世界に希望を持つことができた。



アメリカ ニコラス・ペイト(高知大学留学生)

様々な世代の人がグループに参加し、伝統的な意見と個人の権利という二つの視点があって良かった。日本人は社会に変化をもたらすことができる教育やスキル・能力に重要性を見出していると思った。



高知大学 長尾 祐里佳

尊厳死や安楽死についての意見交換が印象的だった。自分の意見を持ったうえで他人の意見を聞くことで理解が深まることを学んだ。深い思考と意見交換を通じて視野を広くすることができた。



高知県立山田高等学校 萩野 千明

他者の意見を尊重し合いながら議論することの楽しさを知った。色々な考えや価値観に触れ、もっと話し合いたい、考えたい、理解し合いたいと思った。今日の体験で自分が変わったと思った。



高知大学 大西 里実

NGO 募金支援では難民の人権について考えさせられた。安楽死法案では人によって生死観が違った。人は触れ合ってみて初めて理解できると思った。外国人との壁や情報、イメージの壁を払拭することができた。



高知県立丸の内高等学校 沖田 詩織

安楽死を「人生のオプションの一つとしていいかも」という意見が印象的だった。年齢層による意見の違いがあったが、それも一人ひとりの価値観だと思った。最後には自分から意見が言えるようになり良かった。



高知大学 明珍 尋紀

主観的な立場の人が多くて驚いた。「死」についての意見は色々あり自己発見した。色々な意見から最善の解決策を見つけることの大切さを学んだ。フォーラムは色々な価値観に触れ、おもしろかった。



一般社団法人 中村青年会議所 林 知成

法案審議セッションが印象的だった。自分はまだまだみんなが「あっと驚くような意見が言えていない」と自己発見した。これだけ多くの生徒や学生が異文化交流プログラムに積極的に参加していることに学んだ。